

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年6月17日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3894000078
事業所名	グループホームさくらさく
(ユニット名)	はな
記入者(管理者)	
氏名	片山 陽子
自己評価作成日	令和1年 5 月 23 日

<p>【事業所理念】 さくらさく季節のように、あたたかい介護と笑顔を送ります</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 業務の効率化が徐々により、また、家族にも協力して頂いた結果、外出の機会が増えた。ユニット間の交流が図れるようにホーム内のイベントも増やし、ボランティアの方の音楽や踊りを楽しんだ。地域住民とはあまり交流がもてていなかったが、敬老会の余興をお願いしたり、避難訓練に参加してもらい、少しずつではあるが交流ができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設2年目を迎える事業所は、田園に囲まれた静かな場所にあり、四季の移り変わりを肌で感じながら生活を送ることができ、住民と交流することで地域とのかかわりも少しずつ深まっている。地元の野菜を使って馴染みの料理を提供するなど、少しでも家庭的な雰囲気味わえるよう工夫もしている。代表者と管理者は職員が働きやすい環境づくりに取り組んでおり、それが職員にも伝わっているため、仕事に対する意欲が高まり、職員のスキルアップにもつながっている。管理者を中心に職員一丸となり、いろいろな課題をひとつずつ解決し目標が達成できるよう取り組んでおり、今後がますます楽しい事業所である。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時やケアプラン作成時に利用者様やご家族様から直接、希望や要望を聞き、把握に努めている。また日々の会話の中で望みを聞き出している	○	/	○	日常生活の会話の中から利用者個々の思いや意向を聞き、家族にも要望等をうかがって、情報の充実に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の気持ちに寄り添えるよう考え、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時やイベント時、電話などでご家族様と話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人の介護記録に記入し、具体的な会話内容などを特に記載するようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意見の偏りがないように職員間で意見を出し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にご家族様から話を聞き、出来る限り、カルテにまとめていくがわからないこともある。新しく気づいたり聞いたことは職員間で話し合い、共有している。	/	/	○	入居時に家族を中心にこれまでの暮らし方やこだわり等を聞き、医療関係者や面会に来た友人等にも新たな情報を聞いており、その内容は職員間で話し合い共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活状況の中で利用者様の有する能力の把握に努め、個別に出来ることをお願いしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	不安になったり、落ち着かなくなった時は介護記録に記載するようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りやカンファレンスで、その都度話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	利用者様の体調、バイタルチェック、食事・水分の摂取状況、排泄状況、一日の過ごし方等、申し送り時に報告を行い、共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントをもとにケアカンファレンスを行い、必要なことをケアプランに取り入れている。	/	/	○	得られた情報をもとに、利用者が何を求めているのか本人視点でカンファレンスを行い、介護計画に活かせるようにしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにて、どのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人やご家族様の意向を踏まえ、課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	必ず本人やご家族様より希望や要望を伺ってケアプランをたてている。	/	/	/	利用者の意向を踏まえ家族と話し合い、医師のアドバイスを取り入れながら支援方法を検討し、家族等の意見等を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族様の要望も踏まえ、医師やナースにも相談し介護計画に反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	孤立しない様、フロアで他者と一緒に過ごせるように支援し、散髪などは行きつけの理容師さんに来て頂いている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族様の協力をケアプランに盛り込んでいるが、偏りがある	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスでケアプランの内容について説明し、理解を図っている。カルテにケアプランを綴じており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	○	介護計画は利用者個々のファイルに綴じており、職員は常に確認することができ、内容を理解し共有している。介護記録を記入する際に介護計画に沿っているかどうか確認し職員間で共有している。利用者個々の表情や言葉が具体的に記録されている。職員の気づきやアイデア等についても、利用者ごとに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録を書く際、ケアプランにそっているか確認しながら記入している。また、月に1回モニタリングを行い、職員間で話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者様ごとに個別で具体的に記録を行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の介護記録や、申し送りノートを活用し出来る限り細かく書くようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者一人一人のケアプランの見直し月を展示して全職員が周知できるようにしている	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直しを行っている。利用者一人ひとりの現状確認は毎月実施している。心身状態や変化が生じた場合はその都度カンファレンスを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、個別でモニタリングを実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院時や状態が変化した場合は新たなプランを作成している状況に応じた計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回のカンファレンスの他、緊急要件がある場合に臨時で会議を開催している。	/	/	○	毎月カンファレンスを行い、緊急案件の場合は臨時で会議を開催したり担当で話し合ったりして共有するようになっている。会議等に参加できない職員は、連絡ノートを回覧し、議事録を確認することで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニットリーダー、管理者が司会者とし、職員から意見が引き出せるように努力している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤者以外は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を閲覧できるようにしている。また、リーダーが連絡ノートにも記入し、口頭でも伝えている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを使い、内容を確認したらサインをするようにしている。	/	/	○	受診ノートや申し送りノート、日誌などを活用し、確実に情報が伝達できるようにしており、確認後はサインを入れ職員全員で共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌や個人記録、申し送りノートを使用し伝達するようになっている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日の会話の中で要望などないか聞いている。また、それが実現できるかの話し合いも行っている。	/	/	/	入浴後に着る衣服を選ぶこと、見たいテレビ番組を選ぶこと、レクリエーションに参加することなどは利用者が自分で自由に選ぶことができるよう支援している。職員は利用者一人ひとりの笑顔が引き出せるよう声かけに工夫するなど、明るい雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	入浴時の衣類の選択やテレビ番組等確認し自己決定できるように場をつくっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけ行い、意思確認するようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムや健康に支障がないように職員が決めることもあるが、出来る限り本人のペースに合わせて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ユーモアを交えつつお話ししたり、笑顔で声かけ行い、雰囲気づくりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	注意深く見守る中で、表情や反応等で伝えたい思いをくみ取れるように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会やカンファレンスで常々学んでいる。また、休憩室や職員トイレの壁に言っはいけない言葉の注意書きを貼り常に意識するようにしている。	◎	○	○	職員は人権や尊厳について勉強会等で学んでおり、声かけや態度についての注意書きを休憩室などに貼り注意を促すなど、常に意識し利用者一人ひとりを尊重しながらケアに取り組んでいる。利用者と呼ぶ際は必ず「さん付け」を徹底しているが、時には大きな声を出してしまう場合もあるため、さりげない声かけの徹底に努めて欲しい。居室の出入りの際はノックや声かけをし、利用者の了解を得るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	言葉遣いや態度には気を付け、問題があった場合は常時話し合っているが、難聴の利用者様には大きな声になってしまうことがある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者様に合わせた声かけや介助を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時は必ず声かけを行い理由を説明し、利用者様の了承を得るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明と契約を交わし、会議などでも注意喚起している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	野菜の下処理や家事等を一緒に行い、色々な事を教えていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	職員は利用者への声かけをまめに行うほか、不穏になりそうな時は職員がさり気なく仲介役となるなど、トラブルを未然に防いでおり、利用者同士良い関係が築けるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	毎日の暮らしの中で、利用者様同士が助け合っている姿を目にすることがあり、優しさや思いやりを実感している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者様同士の関係を把握し、ケアプランにも組み込んでいる。度々の声かけや、トラブルになる前に職員が間に入るよう心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに職員が間に入り話を聴くようにしている。仲介行い、座席の移動などで対応することもある。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に本人様、ご家族様に聞き取りを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様からの聞き取りの範囲内で把握している。また、入所して会話の中で知れた事も大いにある	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	関係性が途切れない様に、ご家族様にも協力してもらい外出している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	落ち着いてお話しできるよう、居室にて椅子の準備やお茶の提供をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日などは戸外に出かけるか、利用者様自身にも希望を伺い近隣を散歩に出かけたりしている	△	△	△	日常的に庭先に出て外気浴をしながらプランターでの野菜づくりを楽しんでいるが、周辺の散歩や買い物等の外出の機会は十分とは言えないため、重度の利用者を含め、外出する機会を増やすよう取り組むことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	回数はまだまだ少ないが、近隣の散歩や、お花見会は残念ながらの天候で、おこもりになったが協力して頂いた	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	お花見や、外気浴への声かけ行い、体調を見ながら参加している	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	偏りはあるが、家に帰ったり、外食を楽しめるよう支援している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会も行い、理解を深めている。気になる症状や状態の変化については、職員間で話し合い、申し送り等で共有できるようにしている。	/	/	/	食事の下ごしらえや掃除など、利用者ができることを取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	朝のラジオ体操、夕方の足踏み運動、希望時の散歩など、日常の中で行えることに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活の中で、できる事、出来ない事、やりたい事を探り、見守りの中行ってもらったり、一緒に行ったりしている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前の情報をもとに把握したり、日々の生活の中であらたに考える様にしている	/	/	/	台拭きや洗濯物をたたむことなど、利用者一人ひとりの能力に応じ、役割や出番を持ってもらい楽しみながら取り組んでもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人にとっての楽しみや、何かできる事を考え、取り組もうとしている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行えていない。お祭りの時は五ツ鹿や唐獅子など楽しまれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	洋服はどれを着るか選んで頂いている。髪型も好みを聴き把握している。	/	/	/	職員は服装の乱れや汚れなどがある場合は、他の利用者等にわからないようさりげなく声かけをしながらカバーしている。重度の利用者も好みの服装にしたり、訪問理容や馴染みの美容室で髪型を整えたりするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	更衣時にはご自身で洋服を選んで頂き、髪型も希望に合わせて整えている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に服を選んだり、声掛けを行い確認するようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者様と相談しながら行っている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人にさりげなく声かけし、ぼたんのかけ間違えや、口の周りの汚れ等整えている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	一人一人に伺って、行きつけがあればそこに行かれる方もいる	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	美容師さんにホームに来ていただき、整容が保てるようにしている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様の楽しみとして、大切にしている	/	/	/	食材は配達でそろえているが、時々利用者と一緒に道の駅に買い出しに行くこともある。地元の山菜を使った煮物や炊き込みご飯など馴染みのあるメニューを取り入れている。箸や茶碗、湯呑は使い慣れた専用のものを使用している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み食事をしていて、重度の利用者を含め、メニューの説明をしながら食事が楽しめるよう支援している。利用者の栄養に偏りがないよう定期的に職員間で話し合う機会を作っているほか、場合によっては医師等のアドバイスを受けながら、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理や洗い物、台拭きなど利用者様が出来る事は一緒にするようにしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝っていただいた際は、感謝の気持ちを伝え、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては、入居時の聞き取りで把握している。好き嫌いについては日常の中で把握し職員間で共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	近くに自生している山菜などを一緒に取りに行き、下処理を行い、職員が調理して提供している。また、ひな祭りのお祝い事には、寿司を作るなど工夫している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	嚥下や、咀嚼状態を見ながら食事形態を考えている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたものを持ってきていただいて、使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルに職員を配置し、一緒に食事をとりながら見守りや介助を行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じフロア内で調理しているため、調理の音や香りなど伝わりやすく、ボードにメニューを提示し、会話にも取り入れている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々に合わせて量を調節し、食事・水分摂取量を記録に残し分かるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量、水分量記録し、足りない場合はおやつやジュースを提供したり、本人が食べたい飲みたい物を中心に、少しでも摂取できるよう工夫している	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者様が食べやすい様に考えたり、偏りがないようにカンファレンスで話す事もある	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、用具のハイター消毒と乾燥機の熱風消毒を行っている。また、頻回に冷蔵庫の掃除を行い、食材の期限の確認をしている	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性について職員間で話し合っている	/	/	/	毎食後の歯磨き後に、職員が口腔内を確認し状況を把握する等清潔保持に努めており、必要に応じ歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケアを行っており、必要に応じて歯科受診もしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した際には、アドバイスを受け、受けた職員は共有できるよう受診ノートに記入したり、実践したりして伝達している	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、ブラシで洗浄し、週に2回消毒、洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、必要に応じて介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常や不具合があった場合はご家族様に報告し、歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり、カンファレンスで意見交換しているため理解している	/	/	/	トイレでの排泄を基本として支援している。リハビリパンツや尿取りパッド、ポータブルトイレ等を使用する場合は職員間でその必要性等について話し合い、その時の状態に合った支援をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており、運動や水分摂取量にも気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録に記入しており、排泄前の行動を把握し、誘導するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者様の状態により、可能であればトイレに行けるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で話し合い、医師や看護師とも相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録を活用し、兆候が見られたら早めに声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様には状況を説明し、使用許可を得ている。サイズ感など、ご本人と相談しながら必要に応じて変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に応じて変更したり、時間帯や尿量に応じて使い分け過剰にオムツを使用しない様に配慮している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎日の運動や、こまめな水分摂取に取り組んでいる。また、入浴時には腹部をマッサージしたり、起床時には冷たい飲み物を飲んで腸を刺激するなどの工夫を行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者様に入浴を決めて頂いているが、「昼間からは・・・夜寝る前に入りたい」と話される利用者様の希望には答えられていない	◎	/	○	利用者の希望があれば、毎日入浴できるようになっており、湯温等も好みに沿えるよう対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせて対応しており、リフトを使用して全員が湯船につかれるようにしている。入浴剤も使用している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	見守り声掛けを行いながら、できる所はしていただいている。リフト浴もあるが、自分で入れる方は使用していない	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けなど工夫しているが、入浴拒まれる時は無理強いせず時間や日付を変更して対応するなどの工夫をしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝と入浴前の二回、バイタルチェック行っており、ご本人の体調や意向も伺い対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りにて、共有している。	/	/	/	安眠できるよう日中活動するなど過ごし方に工夫しており、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。不眠が続く場合は、医師に相談し薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	申し送りにて情報交換し、リズムを整えるよう、日中の活動を行ったりしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	安易に薬剤に頼るのではなく、日中の過ごし方を検討し、改善しても夜間不眠が続く場合は医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室で、利用者様の状態を見ながら、希望があれば休んで頂くよう取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、電話できるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	ハガキを書いてみないか声掛け行方も、拒否される利用者様多く、それっきりになってしまい行えていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればすぐに対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	贈り物が届いた際、お礼の電話ができるよう支援している。ハガキなどは職員が代読している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話について相談し了承している。ご家族様から手紙や贈り物が届く方もおられる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	過去のトラブル事例を踏まえ、現段階では原則、利用者様は金銭を所持しないようにしている。ただ、家族と検討し、事務所金庫に預かっている方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理は施設側で行っているが、外出した際、買い物する場を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物の際には声掛けし、行かれるかは本人に決めてもらっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	金銭管理は施設側で行っており、金銭は所持していないが、買い物時は立て替えて自由に購入できるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族様と話し合い、支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご本人、ご家族様と話し合い、理解を得ている。ご家族様と相談し、立て替えを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	急な外出にも柔軟に対応し、思いが叶えられるように支援している	○	/	○	買い物や冠婚葬祭による外出の要望等、柔軟なサービスにも臨機応変に対応するよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花を植えており、春には満開の桜が見られる。また、駐車スペースを3台以上確保している。	◎	◎	◎	玄関周りにはきれいに整理整頓されている。花壇には花が植えられ、清潔感があり親しみやすい雰囲気づくりがなされている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の花を手洗い場やカウンターに置いている。	◎	○	○	リビングには大きな窓があり四季の移ろいを感じることができるほか、自然の光が差し込み明るく開放感がある。掃除も行き届いており、清潔感がある。壁には行事の写真を貼ったり、玄関や洗面台、テーブルには季節の花が飾られており、心地よさが感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃行い、換気もして空気の入れ替えを行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり、フロアからは景色がよく見え、季節の移り変わりを感じられるようになっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアの窓際にソファを置き、景色を楽しみながらお話できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ほぼ、見えにくい場所にあり、トイレに入られた際は、危険のない範囲で戸を開けて対応している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンス等の家具や布団など使い慣れたものを持参していただいている。	◎	/	○	テレビや冷蔵庫、タンス、寝具など使い慣れたものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	通路や壁際には手すりを設置している。トイレのドアにはわかりやすいよう、マークを貼っている。	/	/	/	建物内はバリアフリー構造で手すりが取り付けられ、足元には不要な物を置かず、歩行器でも安心して移動できるよう安全確保に努めている。居室の入口には名前を表示したり、トイレもわかりやすく表示する等、自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	個々の状態に合わせて、配置等に気を付けている。危険なものは目の届かない所に置いている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、ティッシュペーパーなど、自由に使用できるよう、テーブルの上に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	オリエンテーション時に説明したり、勉強会でも話し合うことで常々共通認識を図っている	◎	◎	◎	職員は玄関等に鍵をかけることの弊害について理解しており、玄関等はいつも開放されており自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族にも理解して頂ける様に入居時に説明している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は玄関も開放的にしている。両ユニット職員が常に利用者様の居場所の把握に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の受診ノートを作成し、職員全員が周知出来る様にしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタルチェックや様子観察をしっかり行っている。夜勤者からの引継ぎや、介護記録の記載も異常時は特に細かく記載するようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	少しでも変化があれば、看護師に相談できる環境が整っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人、家族からの希望を伺っている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望に沿った受診を行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	出来る限りの通院はホームで対応しているが、家族の希望時は同行するときもある。受診結果の報告は細目に行き、家族に常時現状がどうであるか説明している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内での生活等、サマリーを渡している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には必要な情報を伝えているが、入院中はあまりできていない				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	管理者の会に参加していただくなどして関係づくりを行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3日、パート勤務の看護師に細目に相談している。また休みの際に、電話で報告等行っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師に相談できる体制にある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行い、異常時は看護師に報告している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに薬剤情報提供書を入れている。薬の変更時には、受診ノートにも記載している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬の薬には日付けを入れ、内服時には声に出して、名前、日付けを言い、間違いがないかの確認を行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の状態や、副作用がないかなど本人の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	異常時は介護記録に記載し、看護師に相談。また、家族主治医に報告している				

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明を行い、同意を得ている	/	/	/	利用者や家族には、終末期支援について看取り指針に基づき、説明し同意を得ているほか、重度化や終末期のあり方について、家族や医師、職員等関係者を交え話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	看取りの経験が少ない職員が多く、不安な思いを持っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族の希望を伺いながら、相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちを受け止めコミュニケーションがとれる様に心掛けている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	早期発見、早期対応には努め、勉強会に参加した職員からの指導のもと定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルは作成し、職員がいつでも閲覧できる様にしているが、訓練は年に1度しか行っていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットや、医療機関を通じて、情報をできる限り早く入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時は特に気を付けている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には手洗いの手順を掲示しており、消毒液、ペーパータオルを設置している。玄関先にはマスク、エントランスには手洗い場、消毒液を設け、来訪者にも協力してもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族にはこまめに連絡を取り、季節ごとの衣類交換や、行事などの参加をお願いしている				家族には誕生会や敬老会等行事の参加を呼びかけ、年々参加は増えている。遠方の家族には、電話で家族の様子を詳細に報告しているが、写真や手紙等の送付はできていないため、今後は広報誌等の作成や、写真等を送付するなどの取組みが望まれる。運営推進会議で事業所の運営面は報告しているが、職員の異動等の報告ができていない等、まだ不十分な点もあるので今後は内容の充実に向けて欲しい。家族の面会時には必ず声かけし話がしやすいよう雰囲気づくりに努め、心配ごとや気がかりなことがあれば気軽に相談してもらっているようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気軽に訪問してもらえるよう、声掛け、挨拶等を行っている。来訪時にはお茶を出し、居室でゆっくりと過ごして頂ける様にしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事には参加の案内を呼びかけ行っている。また、来訪時、散歩や外出と一緒にいかれたりもされている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	訪問時や電話時に具体的に伝えているが、手紙や写真の送付は行っていない	○		△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族・本人が話しやすい雰囲気を作り、不安や不満などの訴えを聞けるようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係がより良く築いていけるように、家族とも話し合って支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告しているが、家族には職員の異動、退職などの報告ができていない	×		×	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	敬老会時に、家族同士で会食し、交流が図れるようにしている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明し、その後、必要に応じて何らかのリスクがあることを説明し、対応策など話している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声を掛け話をするように心がけている。また、ケアプラン見直しの際には、担当者は必ず連絡し、意見や要望などを伺っている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	法人代表から契約や重要事項を時間をかけて説明し、納得、同意を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	例えば、病院に入院中の方であれば、お見舞いを兼ね、利用者様の容態を確認し、家族へ逐一報告する。また、共同生活に支障をきたす利用者がいれば、これも逐一家族へ報告をし、家族へ説明し、様々な選択肢を考え、家族とともに考えている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料金については今のところ変更はないが、介護報酬改定には必ず、改定箇所を文書で作成し、同意書をとっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の計画の段階から、自治会へのアプローチを行い、公民館等で事業計画や事業の内容を説明した	/	○	/	地元で野菜や米を購入したり近隣住民とあいさつを交わしたりするなど、地域とのかかわりをもつための努力はうかがえるが、地域行事への参加があまりないのが現状である。今後は地域行事にも積極的に参加する等の取り組みが望まれ、代表者もこれからの課題として自治会への参加を考えており、今後に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近所にあまり民家はないが、地域の方とお会いすれば、必ず挨拶を行っている。、まだ、地域のお祭りを見に行ったりもしている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	開設時に比べ、地域の方からの認知度は少しずつ上がっていて、温かい目で見守ってくれている	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近隣の人が見学に来られたり、花を持ってきて下さる方もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	民家は少ないが、消防訓練などの声掛けや、普段の挨拶など行っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	敬老会や、母の日などのホームの行事には、ボランティアの方に手伝ってもらっている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近隣の散歩や季節感を味わうために、近くをドライブして外出の楽しみを感じてもらったり、よく外食していたお店に行ったりされているが、偏りがある	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理美容店や、近隣の産直市場と一緒に出掛けるなどし、取り組みを行っているが、まだまだではある	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、地域の代表、行政等は参加して頂いている。利用者は偏りはあるが、本人の承諾をえて、参加してもらえるときもある	×	/	△	運営推進会議には利用者や家族、地域の代表、町担当者などが参加しているが、家族は一部の参加にとどまっているため、家族が参加しやすいよう日程調整等の工夫が望まれる。会議では利用者の状況や外部評価結果等の報告を行っている。参加者から得られた意見や提案等は、カンファレンスで話し合い日々のサービス向上の取り組みにつながるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況報告は都度行っている。開設し、初めての外部評価の結果の報告も行った	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議の委員さんから様々の提案や情報をいただき、職員カンファレンス等で話し合いを行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	会議のメンバーは固定化されているので、これから増やすことが課題かと思う。また、多くの参加が見込まれることを考え、日程や時間帯の調整も見直す必要がある	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はいつでも閲覧できるように玄関先に設置してある	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員一人一人が職員一人一人が出動時にすぐ目に入る様に、玄関正面に掲示し、理念に基づいた支援になる様取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	すぐ目に入りやすい様に正面玄関に掲示している。また、パンフレットにも記載している	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ホーム内では定期的に勉強会を実施し、職員の知識と技術の底上げを図っている。また、施設外の研修にも出席してもらっている	/	/	/	代表者は事業所をたびたび訪れており、管理者をはじめ職員全員に声をかけるほか、人事考課で年2回は職員と面談を行い状況を把握している。家庭の状況を聞きシフト面で配慮するなど、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	OJTを行い、少しずつ職員がスキルアップできる様に努めている。また、職員のモチベーションがどうかも常々観察し、コミュニケーションを図っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	度々ホームに訪れ、観察を行っている。また、年2回(夏、年末)の人事考課制度を行っており、自己評価、上司評価、上司面談し、公正な評価を行っている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者の会の参加や、研修を通じて、同業者との交流が図れる様にしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ホームに度々訪問し、管理者、職員に声掛け様子を伺っている。また、職員が話しかけやすい雰囲気作りに努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ほとんどの職員が研修に参加し、また、社内勉強会を行い理解を図っている	/	/	/	開設当初から代表者自らが研修を行い、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について、理解して支援している。不適切な言動があった場合は、管理者が個別に注意喚起するなど、虐待防止を徹底している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送りや、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、状況に応じて個別で話をもっている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の皮膚観察や、異常時には事故報告書を提出し、話し合っている。また、声かけなどに問題がある職員は個別に注意している	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には声をかけ、顔色等気に掛け、体調を伺う様にしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている為、理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	以前は柵を付けてベットから落ちない様にと望まれる家族もおられたが、現在は理解して頂いている	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	一部の職員しか成年後見人制度の研修を受けておらず、ほとんどの職員が理解していない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレットでの情報提供できていないが、相談には応じている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	今の所ケースはないは、必要があれば相談や協力依頼ができるようにしている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	前回できておらず、反省を踏まえて至急マニュアルを作成し、看護師による勉強会を行った。また、マニュアルはいつでも見れる場所に置く様になっている	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署の救急救命講習を受けるなどして、実践力を身につけられる様になっている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書を書く習慣はついており、細目に提出し、カンファレンスでも話しあい、再発防止に努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアで気がつきがあれば、すぐに検討し、事故防止に努めている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルは作成出来ていないが、苦情に対しては誠意を持って対応している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に関しては誠意を持って対応した。苦情報告書に記入し報告した	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、みんなで対応策を話し合っている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気、環境づくりに努めている。訴え時には丁寧に対応し、対応策を職員一同で考える様になっている	/	/	○	利用者からは、日常生活の中で意見や要望を聞き取り把握するよう努めている。家族からは、面会時や電話等で聞くようにしている。管理者と職員の関係は良好で日頃から会話も多く、何でも気軽に相談ができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入居の契約時に、苦情相談窓口について代表が説明し、家族には来訪時や、電話で意見や要望を伺う様になっている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ケアプラン見直し時には、必ず連絡し、伺う様になっている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に各ユニットを訪問し、一人一人利用者に声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努めている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃より、話しやすい雰囲気作りに努め、また、カンファレンスで職員の意見を聞く様になっている。また個別に話す機会を設け意見交換なども行っている	/	/	○	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	職員には、サービス評価の意義を説明し、年2回自己評価を行っている	/	/	/	運営推進会議で外部評価結果等の報告は行っているが、参加者に取組みについてのモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後は評価結果等について具体的な意見や提案等が得られるよう、わかりやすく説明するなどの取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	取り組みの実際や課題、成果など振り返る事ができ、スキルアップにつなげる事ができる	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果を報告し、みんなで話し合った。意識統一を図り目標達成に向けて取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議でコピーを配布し、内容の説明を行いながら意見、感想を伺う様になっている	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画に掲げた内容の状況や成果をカンファレンスで話し合う様になっている	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害の種別ごとにはマニュアル作成し、いつでも見れる場所に置く様になっている	/	/	/	外部評価結果に基づき、地域と連携を図り、家族も参加して避難訓練等を実施するに至ったが、一部家族の理解が得られていないため、全ての家族に理解してもらい協力体制がより強固になるよう努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回、消防署に来てもらい、火災や地震時の日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行った。また今回は初めて煙体験も行った。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検を総合防災会社に依頼し、定期的に点検してもらっている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署に来てもらい、利用者、家族、運営推進会議の方、地域の方で避難訓練、消火訓練を行った	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	なんぐん地域ケア研究会による勉強会や、ネットワークづくりに一部職員ではあるが参加している	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で情報を発信したりしているが、それ以外はできていない	/	/	/	家族からの相談があれば対応している程度であるため、今後は事業所の相談体制を地域にPRし、相談件数が増え、ニーズの集約ができるよう積極的な相談支援に努めて欲しい。町内のグループホーム管理者会に参加し交流に努めているが、つながりができるまでには至っていないため、地域イベント等が協働で行えるよう地域関係機関等との連携を構築することが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族からの相談があれば支援を行っている	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行えていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	管理者の集まりには参加し、連携をとっている	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年6月17日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3894000078
事業所名	グループホームさくらさく
(ユニット名)	もり
記入者(管理者)	
氏名	片山 陽子
自己評価作成日	令和1年 5 月 23 日

<p>【事業所理念】 さくらさく季節のように、あたたかい介護と笑顔を送ります</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 業務の効率化が徐々によくなり、また、家族にも協力して頂いた結果、外出の機会が増えた。ユニット間の交流が図れるようにホーム内のイベントも増やし、ボランティアの方の音楽や踊りを楽しんだ。地域住民とはあまり交流がもてていなかったが、敬老会の余興をお願いしたり、避難訓練に参加してもらい、少しずつではあるが交流ができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設2年目を迎える事業所は、田園に囲まれた静かな場所にあり、四季の移り変わりを肌で感じながら生活を送ることができ、住民と交流することで地域とのかかわりも少しずつ深まっている。地元の野菜を使って馴染みの料理を提供するなど、少しでも家庭的な雰囲気味わえるよう工夫もしている。代表者と管理者は職員が働きやすい環境づくりに取り組んでおり、それが職員にも伝わっているため、仕事に対する意欲が高まり、職員のスキルアップにもつながっている。管理者を中心に職員一丸となり、いろいろな課題をひとつずつ解決し目標が達成できるよう取り組んでおり、今後がますます楽しい事業所である。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時やケアプラン作成時に利用者様やご家族様から直接、希望や要望を聞き、把握に努めている。また日々の会話の中で望みを聞き出している	○	/	○	日常生活の会話の中から利用者個々の思いや意向を聞き、家族にも要望等をうかがって、情報の充実に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者様の気持ちに寄り添えるよう考え、職員間で意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時やイベント時、電話などでご家族様と話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人の介護記録に記入し、具体的な会話内容などを特に記載するようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意見の偏りがないように職員間で意見を出し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にご家族様から話を聞き、出来る限り、カルテにまとめていくがわからないこともある。新しく気づいたり聞いたことは職員間で話し合い、共有している。	/	/	○	入居時に家族を中心にこれまでの暮らし方やこだわり等を聞き、医療関係者や面会に来た友人等にも新たな情報を聞いており、その内容は職員間で話し合い共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活状況の中で利用者様の有する能力の把握に努め、個別に出来ることをお願いしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	不安になったり、落ち着かなくなった時は介護記録に記載するようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りやカンファレンスで、その都度話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	利用者様の体調、バイタルチェック、食事・水分の摂取状況、排泄状況、一日の過ごし方等、申し送り時に報告を行い、共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントをもとにケアカンファレンスを行い、必要なことをケアプランに取り入れている。	/	/	○	得られた情報をもとに、利用者が何を求めているのか本人視点でカンファレンスを行い、介護計画に活かせるようにしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにて、どのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人やご家族様の意向を踏まえ、課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	必ず本人やご家族様より希望や要望を伺ってケアプランをたてている。	/	/	/	利用者の意向を踏まえ家族と話し合い、医師のアドバイスを取り入れながら支援方法を検討し、家族等の意見等を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人やご家族様の要望も踏まえ、医師やナースにも相談し介護計画に反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	孤立しない様、フロアで他者と一緒に過ごせるように支援し、散髪などは行きつけの理容師さんに来て頂いている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族様の協力をケアプランに盛り込んでいるが、偏りがある	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスでケアプランの内容について説明し、理解を図っている。カルテにケアプランを綴じており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	○	介護計画は利用者個々のファイルに綴じており、職員は常に確認することができ、内容を理解し共有している。介護記録を記入する際に介護計画に沿っているかどうか確認し職員間で共有している。利用者個々の表情や言葉が具体的に記録されている。職員の気づきやアイデア等についても、利用者ごとに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録を書く際、ケアプランにそっているか確認しながら記入している。また、月に1回モニタリングを行い、職員間で話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者様ごとに個別で具体的に記録を行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の介護記録や、申し送りノートを活用し出来る限り細かく書くようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者一人一人のケアプランの見直し月を展示して全職員が周知できるようにしている	/	/	○	介護計画は6か月毎に見直しを行っている。利用者一人ひとりの現状確認は毎月実施している。心身状態や変化が生じた場合はその都度カンファレンスを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、個別でモニタリングを実施している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院時や状態が変化した場合は新たなプランを作成している状況に応じた計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回のカンファレンスの他、緊急要件がある場合に臨時で会議を開催している。	/	/	○	毎月カンファレンスを行い、緊急案件の場合は臨時で会議を開催したり担当で話し合ったりして共有するようにしている。会議等に参加できない職員は、連絡ノートを確認し、議事録を確認することで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニットリーダー、管理者が司会者とし、職員から意見が引き出せるように努力している。意見交換がよくなる様になっている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤者以外は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を閲覧できるようにしている。参加した職員が口頭で伝えてもいる	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを使い、内容を確認したらサインをするようにしている。	/	/	○	受診ノートや申し送りノート、日誌などを活用し、確実に情報が伝達できるようにしており、確認後はサインを入れ職員全員で共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌や個人記録、申し送りノートを使用し伝達するようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	毎日の会話の中で要望などないか聞いている。また、それが実現できるかの話し合いも行っている。	/	/	/	入浴後に着る衣服を選ぶこと、見たいテレビ番組を選ぶこと、レクリエーションに参加することなどは利用者が自分で自由に選ぶことができるよう支援している。職員は利用者一人ひとりの笑顔が引き出せるよう声かけに工夫するなど、明るい雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	入浴時の衣類の選択やテレビ番組等確認し自己決定できるように場をつくっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声かけ行い、意思確認するようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムや健康に支障がないように職員が決めることもあるが、出来る限り本人のペースに合わせて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ユーモアを交えつつお話ししたり、笑顔で声かけ行い、雰囲気づくりしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	注意深く見守る中で、表情や反応等で伝えたい思いをくみ取れるように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会やカンファレンスで常々学んでいる。また、休憩室や職員トイレの壁に言ってはいけない言葉の注意書きを貼り常に意識するようにしている。	◎	○	○	職員は人権や尊厳について勉強会等で学んでおり、声かけや態度についての注意書きを休憩室などに貼り注意を促すなど、常に意識し利用者一人ひとりを尊重しながらケアに取り組んでいる。利用者と呼ぶ際は必ず「さん付け」を徹底しているが、時には大きな声を出してしまう場合もあるため、さりげない声かけの徹底に努めて欲しい。居室の出入りの際はノックや声かけをし、利用者の了解を得るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	言葉遣いや態度には気を付け、問題があった場合は常時話し合っているが、難聴の利用者様には大きな声になってしまうことがある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者様に合わせた声かけや介助を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時は必ず声かけを行い理由を説明し、利用者様の了承を得るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明と契約を交わし、会議などでも注意喚起している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯をたんでもらったり、色々な事を教えていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	職員は利用者への声かけをまめに行うほか、不穏になりそうな時は職員がさり気なく仲介役となるなど、トラブルを未然に防いでおり、利用者同士良い関係が築けるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	毎日の暮らしの中で、利用者様同士が助け合っている姿を目にすることがあり、優しさや思いやりを実感している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者様同士の関係を把握し、ケアプランにも組み込んでいる。度々の声かけや、トラブルになる前に職員が間に入るよう心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに職員が間に入り話を聴くようにしている。仲介行い、座席の移動などで対応することもある。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に本人様、ご家族様に聞き取りを行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族様からの聞き取りの範囲内で把握している。また、入所して会話の中で知れた事も大いにある	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	関係性が途切れない様に、ご家族様にも協力してもらい外出している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	落ち着いてお話しできるよう、居室にて椅子の準備やお茶の提供をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日などは戸外に出かけるか、利用者様自身にも希望を伺い近隣を散歩に出かけたりしている	△	△	△	日常的に庭先に出て外気浴をしながらプランターでの野菜づくりを楽しんでいるが、周辺の散歩や買い物等の外出の機会は十分とは言えないため、重度の利用者を含め、外出する機会を増やすよう取り組むことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	回数はまだまだ少ないが、近隣の散歩や、お花見会は残念ながらの天候で、おこもりになったが協力して頂いた	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	お花見や、外気浴への声かけ行い、体調を見ながら参加している	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	偏りはあるが、家に帰ったり、外食を楽しめるよう支援している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についての勉強会も行い、理解を深めている。気になる症状や状態の変化については、職員間で話し合い、申し送り等で共有できるようにしている。	/	/	/	食事の下ごしらえや掃除など、利用者ができることを取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	朝のラジオ体操、夕方の足踏み運動、希望時の散歩など、日常の中で行えることに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活の中で、できる事、出来ない事、やりたい事を探り、見守りの中行ってもらったり、一緒に行ったりしている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前の情報をもとに把握したり、日々の生活の中であらたに考える様にしている	/	/	/	台拭きや洗濯物をたたむことなど、利用者一人ひとりの能力に応じ、役割や出番を持ってもらい楽しみながら取り組んでもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人にとっての楽しみや、何かできる事を考え、取り組もうとしている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	行えていない。お祭りの時は五ツ鹿や唐獅子など楽しまれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	洋服はどれを着るか選んで頂いている。髪型も好みを聴き把握している。	/	/	/	職員は服装の乱れや汚れなどがある場合は、他の利用者等にわからないようさりげなく声かけをしながらカバーしている。重度の利用者も好みの服装にしたり、訪問理容や馴染みの美容室で髪型を整えたりするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	更衣時にはご自身で洋服を選んで頂き、髪型も希望に合わせて整えている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に服を選んだり、声掛けを行い確認するようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者様と相談しながら行っている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人にさりげなく声かけし、ぼたんのかけ間違えや、口の周りの汚れ等整えている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	一人一人に伺って、行きつけがあればそこに行かれる方もいる	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	美容師さんにホームに来ていただき、整容が保てるようにしている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様の楽しみとして、大切にしている	/	/	/	食材は配達でそろえているが、時々利用者と一緒に道の駅に買い出しに行くこともある。地元の山菜を使った煮物や炊き込みご飯など馴染みのあるメニューを取り入れている。箸や茶碗、湯呑は使い慣れた専用のものを使用している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み食事をしていて、重度の利用者を含め、メニューの説明をしながら食事が楽しめるよう支援している。利用者の栄養に偏りがないよう定期的に職員間で話し合う機会を作っているほか、場合によっては医師等のアドバイスを受けながら、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	台拭きや、下膳など利用者様が出来る事は一緒にしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝っていただいた際は、感謝の気持ちを伝え、自信や達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては、入居時の聞き取りで把握している。好き嫌いについては日常の中で把握し職員間で共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	近くに自生している山菜などを一緒に取りに行き、下処理を行い、職員が調理して提供している。また、ひな祭りのお祝い事には、寿司を作るなど工夫している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	嚥下や、咀嚼状態を見ながら食事形態を考えている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたものを持ってきていただいて、使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	各テーブルに職員を配置し、一緒に食事をとりながら見守りや介助を行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じフロア内で調理しているため、調理の音や香りなど伝わりやすく、ボードにメニューを提示し、会話にも取り入れている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々に合わせて量を調節し、食事・水分摂取量を記録に残し分かるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量、水分量記録し、足りない場合はおやつやジュースを提供したり、本人が食べたい飲みたい物を中心に、少しでも摂取できるよう工夫している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者様が食べやすい様に考えたり、偏りがないようにカンファレンスで話す事もある	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日、用具のハイター消毒と乾燥機の熱風消毒を行っている。また、頻回に冷蔵庫の掃除を行い、食材の期限の確認をしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性について職員間で話し合っている	/	/	/	毎食後の歯磨き後に、職員が口腔内を確認し状況を把握する等清潔保持に努めており、必要に応じ歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケアを行っており、必要に応じて歯科受診もしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した際には、アドバイスを受け、受けた職員は共有できるよう受診ノートに記入したり、実践したりして伝達している	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、ブラシで洗浄し、週に2回消毒、洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、必要に応じて介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常や不具合があった場合はご家族様に報告し、歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり、カンファレンスで意見交換しているため理解している	/	/	/	トイレでの排泄を基本として支援している。リハビリパンツや尿取りパッド、ポータブルトイレ等を使用する場合は職員間でその必要性等について話し合い、その時の状態に合った支援をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており、運動や水分摂取量にも気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録に記入しており、排泄前の行動を把握し、誘導するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者様の状態により、可能であればトイレに行けるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で話し合い、医師や看護師とも相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録を活用し、兆候が見られたら早めに声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様には状況を説明し、使用許可を得ている。サイズ感など、ご本人と相談しながら必要に応じて変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に応じて変更したり、時間帯や尿量に応じて使い分け過剰にオムツを使用しない様に配慮している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎日の運動や、こまめな水分摂取に取り組んでいる。また、入浴時には腹部をマッサージしたり、起床時には冷たい飲み物を飲んで腸を刺激するなどの工夫を行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者様に入浴を決めて頂いているが、「昼間からは・・・夜寝る前に入りたい」と話される利用者様の希望には答えられていない	◎	/	○	利用者の希望があれば、毎日入浴できるようになっており、湯温等も好みに沿えるよう対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせて対応しており、リフトを使用して全員が湯船につかれるようにしている。入浴剤も使用している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	見守り声掛けを行いながら、できる所はしていただいている。リフト浴もあるが、自分で入れる方は使用していない	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けなど工夫しているが、入浴拒まれる時は無理強いせず時間や日付を変更して対応するなどの工夫をしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝と入浴前の二回、バイタルチェック行っており、ご本人の体調や意向も伺い対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りにて、共有している。	/	/	/	安眠できるよう日中活動するなど過ごし方に工夫しており、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。不眠が続く場合は、医師に相談し薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	申し送りにて情報交換し、リズムを整えるよう、日中の活動を行ったりしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	安易に薬剤に頼るのではなく、日中の過ごし方を検討し、改善しても夜間不眠が続く場合は医師に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室で、利用者様の状態を見ながら、希望があれば休んで頂くよう取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、電話できるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	ハガキを書いてみないか声掛け行方も、拒否される利用者様多く、それっきりになってしまい行えていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればすぐに対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	贈り物が届いた際、お礼の電話ができるよう支援している。ハガキなどは職員が代読している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話について相談し了承している。ご家族様から手紙や贈り物が届く方もおられる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	過去のトラブル事例を踏まえ、現段階では原則、利用者様は金銭を所持しないようにしている。ただ、家族と検討し、事務所金庫に預かっている方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	金銭管理は施設側で行っているが、外出した際、買い物する場を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物の際には声掛けし、行かれるかは本人に決められている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	金銭管理は施設側で行っており、金銭は所持していないが、買い物時は立て替えて自由に購入できるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族様と話し合い、支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご本人、ご家族様と話し合い、理解を得ている。ご家族様と相談し、立て替えを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	急な外出にも柔軟に対応し、思いが叶えられるように支援している	○	/	○	買い物や冠婚葬祭による外出の要望等、柔軟なサービスにも臨機応変に対応するよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には花を植えており、春には満開の桜が見られる。また、駐車スペースを3台以上確保している。	◎	◎	◎	玄関周りにはきれいに整理整頓されている。花壇には花が植えられ、清潔感があり親しみやすい雰囲気づくりがなされている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の花を手洗い場やカウンターに置いている。	◎	○	○	リビングには大きな窓があり四季の移ろいを感じることができるほか、自然の光が差し込み明るく開放感がある。掃除も行き届いており、清潔感がある。壁には行事の写真を貼ったり、玄関や洗面台、テーブルには季節の花が飾られており、心地よさが感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃行い、換気もして空気の入れ替えを行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり、フロアからは景色がよく見え、季節の移り変わりを感じられるようになっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアの窓際にソファを置き、景色を楽しみながらお話できるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ほぼ、見えにくい場所にあり、トイレに入られた際は、危険のない範囲で戸を開けて対応している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンス等の家具や布団など使い慣れたものを持参していただいている。	◎	/	○	テレビや冷蔵庫、タンス、寝具など使い慣れたものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	通路や壁際には手すりを設置している。トイレのドアにはわかりやすいよう、マークを貼っている。	/	/	○	建物内はバリアフリー構造で手すりが取り付けられ、足元には不要な物を置かず、歩行器でも安心して移動できるよう安全確保に努めている。居室の入口には名前を表示したり、トイレもわかりやすく表示する等、自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	個々の状態に合わせて、配置等に気を付けている。危険なものは目の届かない所に置いている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、ティッシュペーパーなど、自由に使用できるよう、テーブルの上に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	オリエンテーション時に説明したり、勉強会でも話し合うことで常々共通認識を図っている	◎	◎	◎	職員は玄関等に鍵をかけることの弊害について理解しており、玄関等はいつも開放されており自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族にも理解して頂ける様に入居時に説明している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は玄関も開放的にしている。両ユニット職員が常に利用者様の居場所の把握に努めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の受診ノートを作成し、職員全員が周知出来る様にしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタルチェックや様子観察をしっかり行っている。夜勤者からの引継ぎや、介護記録の記載も異常時は特に細かく記載するようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	少しでも変化があれば、看護師に相談できる環境が整っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人、家族からの希望を伺っている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望に沿った受診を行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	出来る限りの通院はホームで対応しているが、家族の希望時は同行するときもある。受診結果の報告は細目に行き、家族に常時現状がどうであるか説明している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内での生活等、サマリーを渡している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には必要な情報を伝えているが、入院中はあまりできていない				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	管理者の会に参加していただくなどして関係づくりを行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週3日、パート勤務の看護師に細目に相談している。また休みの際に、電話で報告等行っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師に相談できる体制にある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行い、異常時は看護師に報告している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに薬剤情報提供書を入れている。薬の変更時には、受診ノートにも記載している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬の薬には日付けを入れ、内服時には声に出して、名前、日付けを言い、間違いがないかの確認を行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の状態や、副作用がないかなど本人の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	異常時は介護記録に記載し、看護師に相談。また、家族主治医に報告している				

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明を行い、同意を得ている	/	/	/	利用者や家族には、終末期支援について看取り指針に基づき、説明し同意を得ているほか、重度化や終末期のあり方について、家族や医師、職員等関係者を交え話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め、方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	看取りの経験が少ない職員が多く、不安な思いを持っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め、入居時に説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族の希望を伺いながら、相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちを受け止めコミュニケーションがとれる様に心掛けている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	早期発見、早期対応には努め、勉強会に参加した職員からの指導のもと定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルは作成し、職員がいつでも閲覧できる様にしているが、訓練は年に1度しか行っていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ネットや、医療機関を通じて、情報をできる限り早く入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時は特に気を付けている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には手洗いの手順を掲示しており、消毒液、ペーパータオルを設置している。玄関先にはマスク、エントランスには手洗い場、消毒液を設け、来訪者にも協力してもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族にはこまめに連絡を取り、季節ごとの衣類交換や、行事などの参加をお願いしている	/	/	/	家族には誕生会や敬老会等行事の参加を呼びかけ、年々参加は増えている。遠方の家族には、電話で家族の様子を詳細に報告しているが、写真や手紙等の送付はできていないため、今後は広報誌等の作成や、写真等を送付するなどの取組みが望まれる。運営推進会議で事業所の運営面は報告しているが、職員の異動等の報告ができていない等、まだ不十分な点もあるので今後は内容の充実に向けて欲しい。家族の面会時には必ず声かけし話がしやすいよう雰囲気づくりに努め、心配ごとや気がかりなことがあれば気軽に相談してもらっているようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気軽に訪問してもらえるよう、声掛け、挨拶等を行っている。来訪時にはお茶を出し、居室でゆっくりと過ごして頂ける様にしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	誕生月の誕生者の家族には連絡し、誕生会に参加してもらっている。また、来訪時には散歩や外出と一緒にいけたりもされている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	訪問時や電話時に具体的に伝えているが、手紙や写真の送付は行っていない	○	/	△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族・本人が話しやすい雰囲気を作り、不安や不満などの訴えを聞けるようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係がより良く築いていけるように、家族とも話し合って支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告しているが、家族には職員の移動、退職などの報告ができていない	x	/	x	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	敬老会時に、家族同士で会食し、交流が図れるようにしている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明し、その後、必要に応じて何らかのリスクがあることを説明し、対応策など話している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声を掛け話をするように心がけている。また、ケアプラン見直しの際には、担当者は必ず連絡し、意見や要望などを伺っている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	法人代表から契約や重要事項を時間をかけて説明し、納得、同意を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	例えば、病院に入院中の方であれば、お見舞いを兼ね、利用者様の容態を確認し、家族へ逐一報告する。また、共同生活に支障をきたす利用者がいれば、これも逐一家族へ報告をし、家族へ説明し、様々な選択肢を考え、家族とともに考えている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料金については今のところ変更はないが、介護報酬改定には必ず、改定箇所を文書で作成し、同意書をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の計画の段階から、自治会へのアプローチを行い、公民館等で事業計画や事業の内容を説明した	/	○	/	地元で野菜や米を購入したり近隣住民とあいさつを交わしたりするなど、地域とのかかわりをもつための努力はうかがえるが、地域行事への参加があまりないのが現状である。今後は地域行事にも積極的に参加する等の取り組みが望まれ、代表者もこれからの課題として自治会への参加を考えており、今後に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近所にあまり民家はないが、地域の方とお会いすれば、必ず挨拶を行っている。、まだ、地域のお祭りを見に行ったりもしている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	開設時に比べ、地域の方からの認知度は少しずつ上がっていて、温かい目で見守ってくれている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近隣の人が見学に来られたり、花を持ってきて下さる方もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	民家は少ないが、消防訓練などの声掛けや、普段の挨拶など行っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	敬老会や、母の日などのホームの行事には、ボランティアの方に手伝ってもらっている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近隣の散歩や季節感を味わうために、近くをドライブして外出の楽しみを感じてもらったり、よく外食していたお店に行ったりされているが、偏りがある	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理美容店や、近隣の産直市場と一緒に出掛けるなどし、取り組みを行っているが、まだまだではある	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、地域の代表、行政等は参加して頂いている。利用者は偏りはあるが、本人の承諾をえて、参加してもらえるときもある	×	/	△	運営推進会議には利用者や家族、地域の代表、町担当者などが参加しているが、家族は一部の参加にとどまっているため、家族が参加しやすいよう日程調整等の工夫が望まれる。会議では利用者の状況や外部評価結果等の報告を行っている。参加者から得られた意見や提案等は、カンファレンスで話し合い日々のサービス向上の取り組みにつながるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況報告は都度行っている。開設し、初めての外部評価の結果の報告も行った	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議の委員さんから様々の提案や情報をいただき、職員カンファレンス等で話し合いを行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	会議のメンバーは固定化されているので、これから増やすことが課題かと思う。また、多くの参加が見込まれることを考え、日程や時間帯の調整も見直す必要がある	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はいつでも閲覧できるように玄関先に設置してある	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員一人一人が職員一人一人が出勤時にすぐ目に入る様に、玄関正面に掲示し、理念に基づいた支援になる様取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	すぐ目に入りやすい様に正面玄関に掲示している。また、パンフレットにも記載している	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ホーム内では定期的に勉強会を実施し、職員の知識と技術の底上げを図っている。また、施設外の研修にも出席してもらっている				代表者は事業所をたびたび訪れており、管理者をはじめ職員全員に声をかけるほか、人事考課で年2回は職員と面談を行い状況を把握している。家庭の状況を聞きシフト面で配慮するなど、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	OJTを行い、少しずつ職員がスキルアップできる様に努めている。また、職員のモチベーションがどうかも常々観察し、コミュニケーションを図っている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	度々ホームに訪れ、観察を行っている。また、年2回(夏、年末)の人事考課制度を行っており、自己評価、上司評価、上司面談し、公正な評価を行っている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者の会の参加や、研修を通じて、同業者との交流が図れる様にしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ホームに度々訪問し、管理者、職員に声掛け様子を伺っている。また、職員が話しかけやすい雰囲気作りに努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ほとんどの職員が研修に参加し、また、社内勉強会を行い理解を図っている				開設当初から代表者自らが研修を行い、職員は不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について、理解して支援している。不適切な言動があった場合は、管理者が個別に注意喚起するなど、虐待防止を徹底している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送りや、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、状況に応じて個別で話をもっている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の皮膚観察や、異常時には事故報告書を提出し、話し合っている。また、声かけなどに問題がある職員は個別に注意している			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には声をかけ、顔色等気に掛け、体調を伺う様にしている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている為、理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内の勉強会で学び、また、日々のケアの中で疑問に思った事は、カンファレンス等で話し合う様にしている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	以前は柵を付けてベットから落ちない様にと望まれる家族もおられたが、現在は理解して頂いている				

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	一部の職員しか成年後見人制度の研修を受けておらず、ほとんどの職員が理解していない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	パンフレットでの情報提供できていないが、相談には応じている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	今の所ケースはないは、必要があれば相談や協力依頼ができるようにしている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	前回できておらず、反省を踏まえて至急マニュアルを作成し、看護師による勉強会を行った。また、マニュアルはいつでも見れる場所に置く様になっている	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署の救急救命講習を受けるなどして、実践力を身につけられる様になっている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書を書く習慣はついており、細目に提出し、カンファレンスでも話しあい、再発防止に努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアで気がつきがあれば、すぐに検討し、事故防止に努めている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルは作成出来ていないが、苦情に対しては誠意を持って対応している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に関しては誠意を持って対応した。苦情報告書に記入し報告した	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、みんなで対応策を話し合っている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気、環境づくりに努めている。訴え時には丁寧に対応し、対応策を職員一同で考える様になっている	/	/	○	利用者からは、日常生活の中で意見や要望を聞き取り把握するよう努めている。家族からは、面会時や電話等で聞くようにしている。管理者と職員の関係は良好で日頃から会話も多く、何でも気軽に相談ができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入居の契約時に、苦情相談窓口について代表が説明し、家族には来訪時や、電話で意見や要望を伺う様になっている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ケアプラン見直し時には、必ず連絡し、伺う様になっている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に各ユニットを訪問し、一人一人利用者に声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努めている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃より、話しやすい雰囲気作りに努め、また、カンファレンスで職員の意見を聞く様になっている。また個別に話す機会を設け意見交換なども行っている	/	/	○	

愛媛県グループホームさくらさく

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	職員には、サービス評価の意義を説明し、年2回自己評価を行っている	/	/	/	運営推進会議で外部評価結果等の報告は行っているが、参加者に取組みについてのモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後は評価結果等について具体的な意見や提案等が得られるよう、わかりやすく説明するなどの取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	取り組みの実際や課題、成果など振り返る事ができ、スキルアップにつなげる事ができる	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果を報告し、みんなで話し合った。意識統一を図り目標達成に向けて取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議でコピーを配布し、内容の説明を行いながら意見、感想を伺う様になっている	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画に掲げた内容の状況や成果をカンファレンスで話し合う様になっている	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害の種別ごとにはマニュアル作成し、いつでも見れる場所に置く様になっている	/	/	/	外部評価結果に基づき、地域と連携を図り、家族も参加して避難訓練等を実施するに至ったが、一部家族の理解が得られていないため、全ての家族に理解してもらい協力体制がより強固になるよう努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回、消防署に来てもらい、火災や地震時の日勤帯、夜間帯を想定した訓練を行った。また今回は初めて煙体験も行った。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検を総合防災会社に依頼し、定期的に点検してもらっている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署に来てもらい、利用者、家族、運営推進会議の方、地域の方で避難訓練、消火訓練を行った	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	なんぐん地域ケア研究会による勉強会や、ネットワークづくりに一部職員ではあるが参加している	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で情報を発信したりしているが、それ以外はできていない	/	/	/	家族からの相談があれば対応している程度であるため、今後は事業所の相談体制を地域にPRし、相談件数が増え、ニーズの集約ができるよう積極的な相談支援に努めて欲しい。町内のグループホーム管理者会に参加し交流に努めているが、つながりができるまでには至っていないため、地域イベント等が協働で行えるよう地域関係機関等との連携を構築することが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族からの相談があれば支援を行っている	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行えていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	管理者の集まりには参加し、連携をとっている	/	/	△	